

# 令和元年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

## 図工

	指導上の課題の分析	指導のめあて	授業改善の視点	評価（成果と課題）
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○素直な反応で感じたことを伝え合い、自分の作品や友だちの作品のよさを感じ取っている。</li> <li>○昨年に比べて、私語が増えたり、切り替えが遅くなったりしているので、より良い図工の時間になるように工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1人のよさや思いを生かせるような題材、かかわりから深まるような題材を工夫し設定する。</li> <li>○材料や素材、道具との出会いを大切にし、既存の道具や新しい用具の正しい扱い方を丁寧に指導し、発達段階に合わせて道具の指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○素材の感触や手触りを楽しんだり、色の組み合わせや色のよさを見つけたり楽しんだりする活動を取り入れ、自分の感覚で気付けるような題材を設定する。</li> <li>○水彩絵の具、かなづち・釘の扱いなど、道具や材料の扱いについて基礎・基本を身に付ける学習を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室環境を整え、いつでも材料に目にしたり触れられたり、よさを感じられるようにした。</li> <li>○友だちと学び合う、協力する、教え合う活動を通して、金づちやのこぎりのよさを共感しながら学習することができた。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しく自分の思いに合わせて取り組むことができる。素直な反応で、感じたことを伝え合い、自分の作品や友だちの作品のよさを感じ取っている。</li> <li>○伝えたことを聞いているように見えるが、しっかりと理解できず、あいまいな行動をすることもあるので、確認をして進めていく。</li> <li>○既習を次に生かそうとする姿が見られ、意欲的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1人のよさや思いを生かせるような題材、かかわりから深まるような題材を工夫し設定する。</li> <li>○材料や素材、道具との出会いを大切にし、既存の道具や新しい用具の正しい扱い方を丁寧に指導し、発達段階に合わせて道具の指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○彫刻刀の特徴と、木版画の表現の工夫を結び付け、手ごたえや音、においなどにも着目し、感じながらつくるように声をかけ進める。</li> <li>○一人一人のつまづきや進度を把握し、技術での個別指導をなど、適切に支援を行う。</li> <li>○視覚的に理解を深めるため、参考作品やICT掲示物等を提示し、授業を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○彫刻刀の特徴と、木版画の表現の工夫を結び付け、指導を行った。また、手ごたえや音、においなどにも着目し、感じながらつくることを進めた。</li> <li>○新しい素材使って、素材との出会いを大切にそれぞれの感じ方を大切にして進めた。また、鑑賞の視点を広げられた。</li> </ul>

5年	<p>○自分の感覚や見方、感性を生かし、工夫することができる。</p> <p>○自分の考えと友達の考えをくらべ、よいものは自分の考えに取り入れようとする。</p> <p>○能力差がみられる。教員や友だちのアドバイスや指示を素直に柔軟に受けとめることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○これまでの経験を生かし、自分の思いをより広げ、表現を深めていけるように進める。</p> <p>○一人一人の能力や思いに沿った個別指導を心がけ、授業や授業の後に、一人一人のつまずきや思いを把握し、適切に支援できるようにする。</p>	<p>○上手下手の感覚ではなく、個人の感性のおもしろさや発想の豊かさを受け止め、思いを大切にしたい作品のよさを伝え、指導する。</p> <p>○感覚を生かしながらも、計画的に見通しをもって制作する活動を少しずつ取り入れていく。</p> <p>○構成の美しさの感じや、用途や自分の思いを伝える目的、それを満たす条件を考えながら表し方や計画をたて、児童が思いついたことを表現できる題材を設定する。</p>	<p>○伝統工芸品や木工など、多様な表現にチャレンジできた。</p> <p>○作品見本や、視点、ねらいなどをICT機器で示し、見通しをもって進められるようにし、イメージを深めた。</p> <p>○柔軟な支援が必要な場が多かった。作品をつくる目的や方法、考え方、工夫を考える指針などをより丁寧に指導していく必要があった。</p>
6年	<p>○自分の作品とよく向き合い、意欲的である。</p> <p>○材料のよさや表現のよさを素直に受け止めることができる</p> <p>○上手下手にとらわれず、自由に表現を楽しむことができるが、丁寧さと雑さの判断ができないことがある</p> <p>○かかわり合いから学び合う場を、自由な時間と捉えて過ごしてしまうことがある。</p>	<p>○これまでの経験を生かし、自分の思いをより広げ、表現を深めていけるように進める。</p> <p>○一人一人の能力や思いに沿った個別指導を心がけ、授業や授業の後に、一人一人のつまずきや思いを把握し、適切に支援できるようにする。</p>	<p>○自分の思いを作品に投影するような活動を進め、イメージや思いが広がるような題材を設定する。</p> <p>○視覚的に理解を深めるため、参考作品やICT掲示物等を提示し、授業を進める。</p> <p>○全体で学習のめあてを確認し、自分で意識できるような声かけをしていく。</p>	<p>○「12年後の私」では、未来の自分の姿や、風景や場面をイメージし、材料を生かし空間をつくったり自分の姿の人形を粘土で工夫したり未来の様子をつくることのできた。</p> <p>○柔軟な支援が必要な場が多かった。作品をつくる目的や方法、考え方、工夫を考える指針などをより丁寧に指導していく必要があった。</p>